

ザ・「合唱」それは学校行事最後の砦！

＜令和6年度後期始業式 校長講話＞

今日からいよいよ学校は後半戦のスタートとなります。

後期すぐに迎えるのが、10日後の10月25日の合唱祭です。学校行事は、卒業式・入学式が別格の存在ではありますが、その次に位置するのは、修学旅行、体育祭（運動会）、合唱（合唱祭、合唱コンクール、音楽祭等）の三大行事だと思っています。巷での「中学時代に一番思い出に残っている学校行事は？」という各種アンケート結果をみても、必ず上位3つに入る行事です。

以前は、学校行事はもっとたくさんありました。文化祭、芸能祭、球技大会、などもそうです。時代の変化とともに、様々な要因で授業以外の学校行事など各種活動は削減・精選・縮小の一途をたどっています。今後の部活動の地域移行が本格化すれば、中学校体育連盟主催の体育大会や各種文化的コンサート・発表会等もどうなるかわかりません。もちろん、選手激励会・報告会等もする必要がなくなるのが考えられます。

仮に、世の中の流れや学校事情等で、修学旅行、体育祭、合唱の3つの行事のうち、2つをなくして1つだけ残すという究極の選択を迫られたとしたら、どうするでしょうか？ 私は、悩みに悩みますが、合唱を残す決断をします。あくまでも個人的な見解です。

まず、修学旅行は、当然嬉しくて楽しくて一生の思い出に残る貴重な機会かもしれません。でも、班別研修やテーマパーク等でいつもの仲のいいグループで行動する時間が多くを占めるのであれば、特に学校行事でなくて、プライベートでも同様の体験は十分にできるはずです。

次に、体育祭と合唱を比べてみましょう。この2つのどちらを選

ぶかは、とても難しい選択です。体育祭は、当日の競技や応援の様子は胸を打つ感動のシーンがたくさんありますし、生徒自身も楽しいと思う人が多いのは確かです。また、学年や学級の垣根を越えた縦割りの交流や人間関係の構築という観点からも、教育効果は大きいと言えます。

なのに、なぜ合唱に軍配を挙げるかと言えば、これまでの教員人生を振り返ればこそその理由があります。私自身、スポーツが大好きですし、体育祭も、毎年毎年常に感動に満ちた行事で大好きです。でも、決して涙することはありませんでした。

一方、合唱は、すばらしい発表を聴いた時には、思わず鳥肌が立ったり、感情が込み上げて自然に目頭が熱くなったりすることが何度かあったのです。特に3年生が、中学校最後の団結の証として心一つに歌い上げたメッセージ性も音楽性も高い合唱で。

体育祭は、リーダー等の一部の生徒の活動はそれなりに長期に及びますが、全校としての活動は数日間に限られます。また、競技やパネルも、もともとの運動能力や美術的センスが高い生徒が揃えばそれなりの結果がもたらせられます。

一方合唱は、スーパーな存在の一部の誰かに頼らずとも、だれもが平等の立場で参加できます。音楽の時間に始まり、数週間の長丁場にわたる人間関係の衝突、葛藤、協力や団結を経てこそ、聴くものを感涙させる一つのすばらしい作品が創られるのです。

以前の校長だよりでも触れたかもしれませんが、例えて言うなら、体育祭は打ち上げ花火、合唱は線香花火です。

大空に大輪を咲かせる勇壮な打ち上げ花火も綺麗かもしれませんが、私は暗闇と静寂の中で光を放ちながら、じわじわと輝きを強めながら自己主張する線香花火が大好きです。そんな美しさと純粹さとかけがえのなさとはかなさを合唱に感じるのです。

今年の合唱祭のスローガンは、「歌声でつなぐ絆」。

練習や発表は学級単体ですが、それぞれの練習への取組や実際の発表に触れて、他の学年・学級・友達の努力や頑張りを共感・共鳴・納得し、同じ目標に向かう集団や人間としての絆が感じられることを大いに期待しています。

合唱祭を成功させて、そのままの勢いで、後期を全力で駆け抜けてください。